

震災から2年4か月となります。被災地は景色が余り変わらない状況にあるものの多くの人の関心はどんどん薄れているのが現実です。たとえ小さな活動でも継続していくことを龍JINのメンバーと確認しています。変わらずの応援をよろしくお願いいたします。6月22日、子どもたちと石巻市門脇地区に花壇づくりに行ってきた内容はポリュームが多いため次回第20号に紹介します。楽しみにしてください。

那須烏山市岩子仮設住宅の閉所式開催

4月28日(日)、栃木県で唯一設置された東日本大震災被災者のための岩子仮設住宅の閉所式(解村式)を行いました。

行政が決めた入居2年という期限内に被災された入居全家族が新築など形式はそれぞれ異なってはいるものの新しい生活の場を決めて閉所式を迎えることができました。



たくさんの方がお祝いに集まってくれた閉所式

龍JINとして岩子仮設住宅の皆様への支援活動は今回の閉所式を含めて5回目です。

今回は、昨年10月にJAなす南山田組合長と地元荒川小学校の子どもたちが合同で新米と応援メッセージを届けた「那須烏山まごころ子ども親善大使活動」でした。その時、岩子住宅の曾根原自治会長からお礼として閉所式には必ず荒川小学校の児童のみなさんを招待して楽しいイベントにすることを約束していました。

今回の閉所式の日程は荒川小の子どもたちの都合を第一優先にして決めました。

市役所の担当者と自治会長の曾根原さんと調整し第一部は式典として市が担当し第二部を「復興岩子ありがとう感謝の集い」と命名し龍JINが担当することになりました。

式典で大谷市長の挨拶の後、曾根原会長から「たくさんの皆様から支援していただき全員引っ越すことができました。ありがとうございました。支援していただく活動を通して多くの団体・個人の絆・ネットワークがどんどん太く強くなっていくことを実感しとても頼もしかった。これから何が起こるか分かりませんが有事の時はこの絆が財産になると思います。これからも応援よろしくお願いいたします」と挨拶されました。



過去4回実施したイベント



多くの団体・個人の絆が財産になったと曾根原会長

龍 JIN としては多くの団体に働きかけ町の活性化を意識してネットワークづくりに取り組みました。今回の閉所式には実に14団体が参加して閉所式を祝ってくれました。

荒川小学校ではこの日のために歌のプレゼントを計画し一生懸命練習したそうです。

烏山和太鼓の迫力いっぱいの演奏や岡倉ゆかりさんとオリオリゴスペルメンバーがいつもの素敵な歌声を響かせて会場を盛り上げてくれました。



一生懸命練習した歌を披露する荒川小の子どもたち



烏山和太鼓の会の太鼓演奏



応援イベントの際には毎回駆けつけてくれる岡倉ゆかりさんとオリオリゴスペルメンバー

小山市からボランティアチーム YAMBE がチョコバナナなどの炊き出しに来てくれたことも絆の広がりを感じる嬉しい出来事でした。



和やかに盛り上がっている笑顔の会場



岩子住宅の皆さんが楽しんでくれました

岩子住宅の皆様がたくさん出席されて一緒に楽しんでくれたことがなにより嬉しく充実したイベントになりました。



14以上の団体・個人の絆・ネットワークができたことを記念しての写真

一万円海の幸応援ファンドのお返しが届く

平成24年2月に立ち上げた海の幸応援ファンドですが石巻市泊浜の復興が進まず1年以内を目標にお返しできる予定でしたが実現できない状態が続いていました。

出資者の皆様には右のとおり今年の秋頃まで待つて欲しいとお知らせしましたが5月末よりホタテを発送することができました。

送料込2500円のお返しという仕組みであるにも拘わらず特大の生きたホタテを12ケも送ってきました。代表の平塚英徳さんは「お金も大切だが皆さんの応援してくれる気持ちに恩返しをしたいんだ」と笑顔で話してくれました。

ホタテが届いた出資者の皆さんからたくさんの電話や手紙をいただき「喜んでもらえて本当に良かった」と平塚さんの声がさらに明るくなりました。

泊浜では多くの方の年齢が高く実際に宛名書き等の事務仕事を平塚さんご夫妻のみで処理していることに申し訳ない気持ちになりながらもファンド出資者の「ありがとう」の音がとても多く安心しました。

しかし、泊浜は防波堤も破損されたままで船着場も修復工事が進まない状態であり復興はまだまだ先になることが現実です。皆様の温かなご支援を引き続きお願いいたします。



泊浜自慢の生きたままのホタテ 12 枚



応援ファンドのお詫びとお願い

一口一万円「海の幸応援ファンド」のお返しが一部の方を除いて遅れています。石巻市牡鹿半島の内海である荻浜は復興が少し進み牡蠣はまだ十分ではないもののワカメが順調で昨年、皆様のお手元に届いたものと思います。しかし、もう一方の泊浜は外海で防波堤が 100m にわたって破壊されたまま復興が進まず、いまだ漁をする条件が整っていません。

泊浜の漁師の皆さんはファンド申込者に申し訳ないと会う度に言われます。私も浜と集落の状況を見るにつけても辛い気持ちになります。それでも今年はホタテの養殖が順調で秋になれば恩返しを始めることができると懸命に頑張っています。

このような状況をご理解いただき、もう少し海の幸のお届けをお待ちいただけると幸いです。

(既に2回届いた方も含め、全員にお知らせしています)

平成 25 年 2 月

龍 JIN 代表 小堀道和 ☎090-1611-5491

お詫びのはがき

震災から 2 年の月日が経ちました。
がしきは撤去され、海岸の方は風景は、
無くすみ、寂しさが残ります。
復興には まだまだ 時間が掛かります。
ファンドの皆様方には、大変お世話をいたしました。
今年からようやく 養殖ホタテが 出荷出来ふり兼ねになり
皆様方には、お返しが出来ふり兼ねになりました。
みんなが、一歩づつ 前へ進んで行きます。
泊浜の海の幸、ホタテを 召し上げて下さい。
本当にありがとうございます。

平塚 英徳 平塚 清一郎

阿部 勝 平塚 萌雄

阿部 啓 松川 一浩

松川 喜洋

↑ 同封されたお礼状

← 今年4月金華山ツアー途中に訪れた際に浜の現状を説明する平塚代表